

復興支援ボランティア事業（第5期）活動報告

派遣期間：平成23年9月30日（金）～10月2日（日）

派遣先：宮城県東松島市

参加者：ボランティア16名、引率職員2名

【1日目】9月30日（金）

22：30

八王子市役所ロビーに集合。

八王子市社会福祉協議会小田島常務理事から激励の言葉をいただいた後、参加者を代表して藤田さんより「皆で力をあわせて、被災された方のために頑張ります。」と緊張気味に活動への意気込みを宣言！



22：45

バスに乗車して東松島市へ向けて出発。バスの中で日程を再度確認し、参加者の自己紹介などを行った後、移動中のバスで車中泊。

【2日目】10月1日（土）

8：15

東松島市の活動拠点である野蒜（のびる）小学校に到着。小学校では、ボランティアグループの方から説明を聞き、震災当時に108人のご遺体を安置した体育館にて、全員で合掌。小学校の校庭には復興に向けて、仮設住宅が着々と建設されていた。



9 : 15

活動先の大曲浜東地区センターに到着。震災から半年以上経過しているが、まだ、被災当時のままで手付かずの状況であった。同センターは平屋建ての下の部分の窓ガラスは全て割れており、津波が凄まじかったことがうかがわれた。各部屋には住民の方の思い出の品などがそのままになっている状況。



午前中の活動は、テーブルやいすなど家具類を外に片付けることや、住民の方の賞状やトロフィー、使われていた食器等を泥などから取り出す作業となりました。木片や泥が 30 センチほど堆積して、その中からいすやテーブルを掘り出す作業で、かなりの重労働でしたが、みんなで協力をして、次第に床が姿を現しました。



11 : 45

お昼休憩のため野蒜小学校へバスで戻り、畳の部屋で、休憩をとりました。



13 : 30

休憩場所の野蒜小を出発

午後も、午前中に引き続き、住民の方の思い出の品であるトロフィーや賞状、お皿などの食器類テーブルや
いすを片付けました。



はじめは不可能に思えた部屋の片付けが、一部屋終わり、そこに、思い出の品や見えそうなテーブルやいす
を搬入しました。

「全員で作業を行った結果で、まさに団結力のたまもの！」

夕方になって、作業終了。風が出てきて、汗にぬれた衣類が、肌寒く感じられました。

16 : 00

1日目の活動を終え、宿泊地である古川へバスで移動、17 : 15 ごろホテルに到着しました。

【3日目】10月2日（日）

7 : 45

天候は晴れ、本日も昨日と同じ大曲の活動先へ向かってホテルを出発。

9 : 00

大曲の活動場所に到着。昨日に続き、泥だし作業を開始、運び出した物の仕分け作業も平行して行いました。

11 : 45 に活動を終了し、同センターの前で、集合写真を撮影し活動場所を後にしました。



帰りのバスの中では1人ずつ感想を発表していただきました。「住民とのふれあいがあるとよかった。」「とても参加しやすい企画でした。」「ひとりの力は小さいけれど、みんなで力を合わせると素晴らしい。」「何かしたいが、ボランティアに参加する勇気がない人に最適な企画」「もっと活動時間が長く欲しい。」などの声と共に、多くの方から「また、このような機会があれば参加したい」との声をいただきました。

22:00

八王子駅北口を經由し、八王子市役所に到着しました。

今回の活動場所は東松島市の中でも、いまだに手付かずの地域でした。作業現場の周辺には、柱と屋根だけになった家や土台だけ残った所、船が津波で陸地に打ち揚げられたままであったりと、初めてボランティアに参加された方にとっては、かなりショックな状況でしたが、現状を自分の目で見ることができ、被災地の復興に時間がかかることを実感することができました。同時に、まだまだ東松島市はもちろん、被災地への支援を絶やすことなく行っていく必要があると再認識しました。



今回参加されたメンバー16人が、短い期間ではありましたが“少しでも東松島市の復興に役立ちたい”という思いで一致団結され、活動にあたられた、本当に素晴らしいことであったと思います。

第5期の皆さん、本当にお疲れ様でした。

文責：井上 美文（地域福祉推進課長）